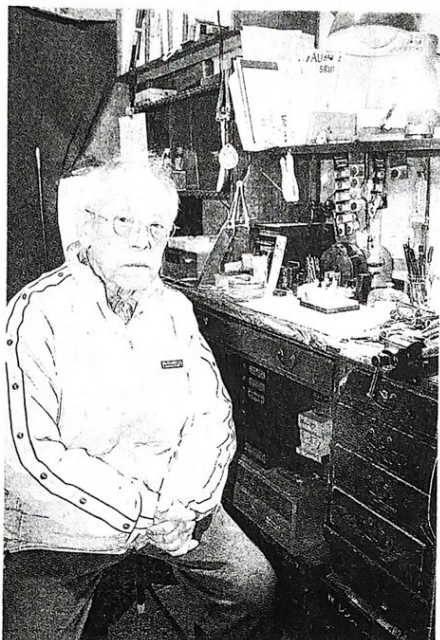


吉田時計店 年内で閉店

(大館市大町)

店主高齢とコロナ禍で

明治創業の 専門店 商店街で長く親しまれ



作業台の前で思い出を振り返る吉田さん
(大館市大町)

明治中期の創業とされる大館市大町の吉田時計店(吉田一雄店主)が12月末で閉店することになった。店主が18日で89歳を迎え高齢などや、新型コロナウイルス禍などを理由に、中心商店街の専門店が惜しまれながらシャッターを下ろす。

曾祖父の吉田鶴蔵さんが1872(明治5)年に南秋田郡・現・秋田市の一部から大館に移り住み、その後時計商を始めたといわれる。祖父の政治家、父親の政雄さんが

継ぎ、販売や修理で繁盛した。祖父が出した大町の店舗は数回移転し、現在地に落ち着

いたのが1959(昭和34)年。以来、中心商店街の盛衰を見届けた。4代目の一雄さんは「高度成長期には、少なくとも10人は買いに来た」と振り返る。主要産業だった鉱山業、林業が勢いを失った。一雄さんの半生が凝縮されていた。

の野球観戦や映画鑑賞に没頭した。店内は商品と共に映画ポスターや写真などが飾られていた。名物店主を慕い、趣味の仲間が店に顔を出すことが、閉店を知った越前貞久さん(71)「美園町」は「よく映画サークルの会報を時計店に預け、会員が受け取りに行ったものだ。店の中で映画鑑賞をしたこともあり、活動拠点の店がなくなるのは残念」と惜しむ。



60年以上「中無休」の経営姿勢を貫いた。毎日午前8時から午後5時まで、一人で仕事に励む傍ら、趣味が最後の仕事かな。よく稼いだというより、やり過ぎた。店じまいの悲しさはなく、冗談っぽく笑った。

年内で閉店する吉田時計店